

協 会 通 信 ～No. 3～

(2018. 10. 31)

発行：一般社団法人 岩手県中小企業診断士協会

目次：会長からのメッセージ	P 1	視察研修会の感想 小田島広実	6
視察研修会写真集 工藤伸一	2～4	日刊岩手建設工業新聞（会長の寄稿）	7
視察研修会報告 高橋庄平	5		

会長からのメッセージ

会 長 宮 健

会員の皆様、お元気ですか。「協会通信」第3号をお届けいたします。

今回は、10月20日（土）～21日（日）に実施した「視察研修会」の報告記事だけでまとめた「特集号」となりました。

視察研修会は、平成30年度の事業計画に盛り込んだ「2. 企業内診断士の勉強会支援」と、「4. 会員の資質向上と相互の親睦を図る」を実践する形で実行したものです。実行委員として全体計画の立案、宿泊場所の手配、当日のスケジュール作成などを担当したのは高橋庄平会員で、これを「いわて実践診断士の会」のリーダーである工藤伸一理事が支援する形で進められました。さらに猿川裕巳理事が、視察先に対する根回しをしてくれました。

視察先に陸前高田市と大船渡市を選んだのは、東日本大震災から7年半経った両市の復興状況や、昨年春に相次いでオープンした商業施設のその後の状況などを視察するためです。さらに宿泊先を大船渡温泉とし、「天然温泉と海の幸」を味わいながら、参加者の交流を図ることとしたものです。

おおよそのスケジュールは、以下のとおりです。

10月20日 正午 「アバッセたかた」の駐車場に集合

13時30分～ アバッセたかた視察研修

18時～ 大船渡温泉志田社長と懇談（その後会食）

10月21日 10時30分～ キャッセン大船渡視察研修（視察後現地解散）
なお、参加者は以下の方々です。

喜多正敏 工藤健人 工藤伸一 小田島広実

齊藤静夫 菅原繁雄 高橋庄平 宮 健（アイウエオ順）

参加された皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

視察研修会写真集

工藤 伸一

○1日目（平成30年10月20日）陸前高田市～大船渡市



正午集合 [アバッセたかた A棟前]



参加者8名集合写真 [東日本大震災追悼施設]



アバッセたかた伊東理事長と面談



会場の高田松原商業開発協同組合 会議室



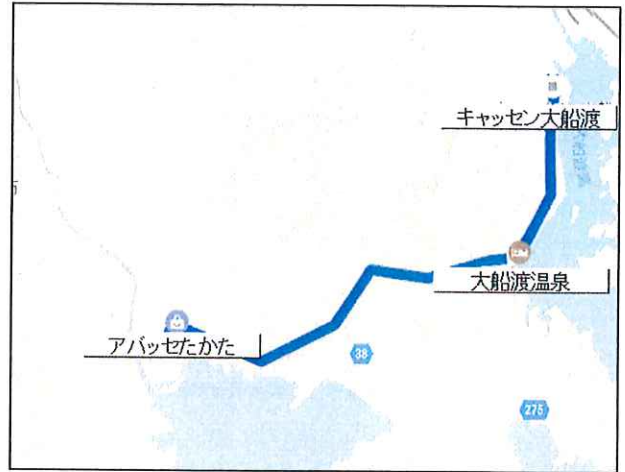
質疑応答の様様



伊東理事長と事務局菅原さん



伊東理事長を囲んでの集合写真



視察先の位置関係

(グーグルの地図データを加工して作成)



大船渡温泉 志田社長との面談



面談の様子その1



面談の様子その2



志田社長を囲んでの集合写真

○2日目（平成30年10月21日）大船渡市



さいとう製菓かもめテラス視察からスタート



キャッセン大船渡での面談



株式会社キャッセン大船渡 臂取締役



宮会長から視察研修の締めくくりのあいさつ



各々でキャッセン大船渡を視察



視察後各自、帰路へ

以上、ありがとうございました。

視察研修会報告

高橋庄平

総勢 8 名の「被災地視察研修会」に参加させていただきました。大人になっての職場以外での宿泊旅行は初めてであり、不安と期待が入り混じったスタートでした。企画を皆様にご案内して、はて何人集まるかは全く読めずに日々を過ごしていた中、ぽつりぽつりとメールが到着して、一安心。ご参加いただいた方はもちろんのこと、ご参加を検討していただいた方々も大変、ありがとうございました。

さて、猿川診断士のご協力もいただきながら、3 か所の視察を行うことができました。いずれも経営陣との面談・ヒアリングをすることができ、貴重な情報もいただきました。その中の一部を抜粋して掲載させていただきます。

1. アバッセたかた

伊東理事長と面談。山十の社長も兼務されているので、私がお会いしたのは震災前でした。「当商店街には月に 10 万人が来場している」とのことであり、一定の集客規模を誇っている一方、金融機関の移転や平成 33 年に予定されている陸前高田市庁舎の移転など、まだまだ、街が変わっていく過程である一方、人口は 19,000 人と減少が止まらず、商圈人口として予定している 30,000 人が維持できなくなる可能性も秘めている。人口の減少はどこの地域でも同様に地域を衰退させてしまう。市民の多くは大船渡市に勤務している現状を考えると新たな産業を作り出せなければ、今後はさらに厳しい環境が予想される。

2. 大船渡温泉

大船渡温泉は、前身は基石温泉海楽荘です。高校を卒業して、東京で料理人として修業していた現志田社長が 25 歳の時、実家に戻り当社に入社その後、家業を手伝いながら事業に携わっていましたが、35 歳の時に両親が交通事故で無くなり突如、社長となることになったとのことでした。そのころから父親が始めていたワカメ養殖を今日まで社長は継続しており、当温泉は「漁業者・料理人」が経営する「温泉」という、他にはない特色を持った温泉となりました。ワカメ養殖 10 台、ホタテ養殖 6 台と漁業者としての規模は従業員を使うほどの規模。料理人として経営者として食材に妥協はなく、いかにしておいしいものを多く宿泊者様にご提供するかを考えて運営されていました。普段、社長は海にいて不在にしていることも多いかと思いますが、ご宿泊の際には社長の弟で支配人をされている志田支配人に一言お声をかけていただければ、大変、喜ばれると思います。

3. キャッセン大船渡

こちらは、アバッセたかたとほぼ同時期にお邪魔したがハロウィンイベントのおかげもあり、多くの来場者でにぎわっていた。土地区画整理事業と一緒に津波復興拠点を整備したおかげで、10.4ha もの市有地を集約することができた。そこをベースに市が街の形を決めたため、とてもきれいに作られている印象を受けた。飲食は計画比 1.1 倍の売上、物販は 1.05 倍の売上と全体的には順調さを PR するものの、個店ごとではうまくいっていない店舗もあるとのこと。11 月から酔仙のお酒とお通し（周辺店舗それぞれから）を一緒に提供する飲食店案内所を開設する予定とのことであり、お気に入りのお店を見つけていただき、回遊のきっかけを作る作戦である。是非とも、成功することを期待してやみません。

視察研修会の感想

小田島広実

10月20日、21日の陸前高田、大船渡への視察研修に参加して、最も意義深いと感じた点は、見学だけでなく、生の話を聞くことができたことでした。

私の日常は、勤務先での内勤の仕事で、他の企業団体のトップに話を聞く機会はほとんどありません。仕事上の関心事は自社内や自社業界であり、接点のない地域や業界の情報に疎く、報道やネットで見聞きする程度です。陸前高田、大船渡は震災以降何度か行ったことはありましたが、関心が薄れていく中、現状を見てみる機会と思い参加しました。また、協会の行事でもあり、年会費分は何かの形で回収したいということもありました。

アバッセたかたでは伊東理事長、菅原事務局長に、大船渡温泉では志田社長、キャッセン大船渡では臂取締役に対応いただきましたが、いずれも内部の資料を提供いただき、内実の話を聞けたりしました。今回の研修を準備された方々への信頼があつてのことと思います。ただ見学しただけではわからない、そこに携わる人たちの考えや思いも知ることができたなど、なるほどと思うこともありました。

また、前回訪れたときは、造成工事の只中である一方、県外からの人も多い観光地のような印象もありましたが、現在は建物も増え、時期季節の違いもあると思いますが、地元の人たちの生活の場という印象でした。2つの商業施設では遊具やイベントに親子連れが集まり、宿泊先では年配のグループの宴会で賑わっていました。

もう一つ、一泊二日の旅程でもあり、参加された方々と一緒に飲んで話をして懇親を深められたと思います。昼間の訪問先での質問の内容や、夜の懇親会で話を聞くと、バックグラウンドや人となり、考え方の一端を知ることができ、とてもよかったです。

最後に、今回の研修の準備や案内役をしていただいた方々、多忙の中対応いただいた訪問先の方々に感謝いたします。とても良い視察研修だったと思います。次回を楽しみにしています。

○編集後記

今回は視察研修の特集として、参加された3人の方々（工藤理事、高橋・小田島両会員）のご協力を得てまとめることができました。あらためて御礼申し上げるとともに、このような催しが当協会の恒例行事になることを願っています。今回、日程の都合等で参加されなかった役員・会員の方々も、次回はぜひ参加していただくようお誘いしたいと思います。

工藤理事には写真撮影と「組み写真」の紙面構成をお願いしました。また、高橋・小田島の両会員には、寄稿文の作成でご苦勞をおかけしました。おかげさまで発行することができました。

個人的な視察よりも、中小企業診断士協会という組織で視察をした方が、視察先の対応も違いますし、他には出さないような数字を聞き出すこともできます。もちろん質疑応答や意見交換の場での視察者側からの発言が、先方のお役に立つこともあります。

ともあれ、8人の統一した行動で、たいへん楽しい視察研修だったことをお汲み取りいただければ幸いです。なお具体的な数字等も出ていますので、本紙の取り扱いは慎重に願います。（宮）

次ページは日刊岩手建設工業新聞の「ズバリ寸評」です。併せてお読みください。

宮健のズバリ寸評

宮健氏



ている（一社）岩手
県中小企業診断士協
会の会員研修の一環
として実施したもの

たものです。「相乗
り」という選択肢も
ありましたがそれぞ
れが「ついでに視察
したい場所がある」
などニーズはまちま
ちだったので結局
「それぞれ」といっ
ことになりました。
アバッセには専門

局の菅原香さんが視
察団を迎えてくれま
した。事前にお願
していたので、資料
の準備などとても行
き届いた対応をして
いただきました。

ただ、被災地全体
の整備はまだ道半ば
で、周辺人口が今後
どれだけ戻ってくる
かが大きな課題とし
て残っています。そ
んなことをあれこれ
考えながら、次の目
的地である大船渡温
泉へと車を走らせま

もありません。交流会
前に、しばし社長の
「企業家魂」につい
ての講話に耳を傾け
ました。

しい街のシンボルを
創り上げる計画が、
ほぼ当初計画通りに
完成していることが
確認できました。

陸前高田・大船渡視察記

10月20から21の両
日、陸前高田市、大
船渡市の復興状況
や、昨年春に相次い
でオープンした商業
施設のその後の状況
等を視察するため
に、両市に行ってい
ました。今回の視察
は、私が会長を務め

で、会員8人が参加
しました。

店街の他に、マイヤ、
しまむら、ツルハド
ラッグなども出店し
ており、さらに市立
図書館も同居してい
ます。

り、商業集積として
はまずまずのスター
トではないかと思
います。今後さらに、
周辺地域に市役所や
文化施設などの建設
も控えており、着実
な復興への足取りを
感じとることができ
ました。

大船渡温泉は東日
本大震災の3年後に
オープンした天然温
泉で、大船渡湾を一
望する大浴場や、地
元の食材を使った料
理が売り物です。温
泉会社の志田豊繁社
長は地元漁業家で

「官民連携まちづく
り協議会」で練り上
げたもので、私も委
員の一人として何度
か会議に出席して意
見を申し上げたりし
ました。エリア内を
八つの街区（ホテル、
大型店、専門店街な
ど）に分割して、新

しい中、運営会社の
臂（ひじ）徹取締役
が資料を基に説明し
てくれました。

視察当日の正午
前、事前打ち合わせ
通り、商業施設「ア
バッセたかた」の駐
車場に8人が勢ぞろ
いしました。それぞ
れ内陸部からマイカ
ーを走らせて集まっ

専門店街などの事
業主体は高田松原商
業開発協同組合で、
伊東孝理事長と事務

長は地元漁業家で

大型店、専門店街な
ど）に分割して、新

に、「まずはひと安
心」との思いで大船
渡を後にしました。

（中小企業診断士）